

# 平成26年度 自治会アンケート調査 結果

調査票配布数  
回答数  
回答率

自治会
145人
116人
80.0%

地区別回答率（地区別自治会数）

<input type="checkbox"/> 平生地区東部地域(35)	29	82.9%
<input type="checkbox"/> 平生地区西部地域(35)	25	71.4%
<input type="checkbox"/> 大野地区(25)	20	80.0%
<input type="checkbox"/> 曾根地区(24)	19	79.2%
<input type="checkbox"/> 佐賀地区(26)	21	80.8%

「平生地区東部地域」が82.9%と最も高く、次いで「佐賀地区」の80.8%となっています。

問1 会長の性別

1. 男性  
 2. 女性

人数	%
101人	87.1%
15人	12.9%

「男性」が87.1%と大半を占めています。

問2 会長の年齢

1. 20歳代以下  
 2. 30歳代  
 3. 40歳代  
 4. 50歳代  
 5. 60歳代  
 6. 70歳代  
 7. 80歳代  
 8. 90歳代

人数	%
0人	0.0%
5人	4.3%
7人	6.0%
13人	11.2%
59人	50.9%
29人	25.0%
3人	2.6%
0人	0.0%

「60歳代」が50.9%と最も高く、次いで「70歳代」が25.0%となっており、60歳以上が全体の約8割を占めます。

問3 会長の職業（主なもの1つに○をしてください）

1. 会社員  
 2. 公務員  
 3. 自営  
 4. 無職  
 5. その他

人数	%
26人	22.4%
4人	3.4%
18人	15.5%
55人	47.4%
13人	11.2%

「無職」が47.4%と最も高く、次いで「会社員」が22.4%と高くなっています。

問4 自治会活動に月に何日ぐらい従事されていますか。

1. 3日以下  
 2. 6日以下  
 3. 9日以下  
 4. 10日以上  
 5. 無回答

人数	%
54人	46.6%
39人	33.6%
6人	5.2%
4人	3.4%
13人	11.2%

「3日以下」の自治会が46.6%と多いが、「10日以上」の自治会も4自治会あります。

問5 会長の在職年数

- 1. 1年
- 2. 2年
- 3. 3～5年
- 4. 6年
- 5. 無回答

人数	%
77人	66.4%
32人	27.6%
3人	2.6%
1人	0.9%
3人	2.6%

「1年」の自治会長が66.4%と高い割合となっており、1年で交代する自治会が多いです。

問6 会員名簿を作成していますか。

- 1. はい→問7へ
- 2. いいえ→問8へ

人数	%
79人	68.1%
37人	31.9%

「会員名簿を作成している」自治会が全体の約7割となっています。

問7 会員名簿の記載内容について教えてください。該当するもの全てに○をしてください。

- 1. 住所
- 2. 世帯主氏名
- 3. 電話番号
- 4. 世帯員数
- 5. 世帯員氏名
- 6. 年齢
- 7. 職業
- 8. その他

人数	%
25人	31.6%
73人	92.4%
55人	69.6%
15人	19.0%
11人	13.9%
7人	8.9%
1人	1.3%
2人	2.5%

記載内容について、「世帯主氏名」を記載している自治会が92.4%と最も高く、次いで「電話番号」が69.6%と高くなっています。

問8 会員名簿の更新時期を教えてください。

- 1. 1年更新
- 2. 2年更新
- 3. 3年更新
- 4. 4年更新以上
- 5. 不定期
- 6. していない
- 7. 無回答

人数	%
32人	40.5%
4人	5.1%
0人	0.0%
0人	0.0%
31人	39.2%
4人	5.1%
8人	10.1%

「1年更新」の自治会が40.5%と最も高く、次いで「不定期」の自治会が39.2%と高くなっています。

問9 会員情報の集め方を教えてください。

- 1. 個別に記入用紙を配布し、会員が記入したものを自治会長が集める
- 2. 個別に記入用紙を配布し、会員が記入したものを班長が集める
- 3. 回覧を行い、個別に記入してもらう
- 4. その他
- 5. 無回答

人数	%
6人	7.6%
4人	5.1%
17人	21.5%
44人	55.7%
8人	10.1%

「その他」が55.7%と最も高く、直接会って聞くなどの意見がありました。次いで「回覧を行い個別に記入してもらう」が21.5%となっています。

問 1 0 名簿の取り扱いについて教えてください。

- 1. 会長のみ所持
- 2. 会長・役員のみ所持
- 3. 加入世帯全戸に配布
- 4. その他
- 5. 無回答

人数	%
45人	57.0%
5人	6.3%
18人	22.8%
3人	3.8%
8人	10.1%

「会長のみ所持」が57.0%と最も高く、次いで「全戸に配布」が22.8%と高くなっています。

問 1 1 今年8月6日の岩国和木豪雨災害、8月19日からの広島大雨災害と、近隣の市町や県で甚大な被害が発生しています。このような状況を受けて、あなたの自治会では、自治会活動に対する会員の関心について、どのように感じていますか。

- 1. 関心が高まったと思う→問12へ
- 2. あまり変わらないと思う→問13へ
- 3. 関心が低くなったと思う→問13へ
- 4. その他→問13へ
- 5. 無回答

人数	%
31人	26.7%
72人	62.1%
1人	0.9%
3人	2.6%
9人	7.8%

「あまり変わらない」が62.1%と最も高く、次いで「関心が高まった」が26.7%となっています。

問 1 2 関心が高まったと思う点はどのような状況からですか。該当するもの全てに○をしてください。

- 1. 加入や活動に対する問い合わせが増えた
- 2. 活動等への意見や要望が増えた
- 3. 総会・行事の参加者が増えた
- 4. 活動・行事への協力者が増えた
- 5. その他

人数	%
0人	0.0%
11人	35.5%
6人	19.4%
13人	41.9%
9人	29.0%

「協力者が増えた」が41.9%と最も高く、次いで「意見や要望が増えた」が35.5%と高くなっています。

問 1 3 自治会活動で一番力を入れている行事とその実施主体、進める上での課題などについて記入してください。

- 実施主体
- 1. 自治会
  - 2. 自治会以外
  - 3. 無回答

人数	%
80人	69.0%
10人	8.6%
26人	22.4%

実施主体は「自治会」が69%となっています。  
一番力を入れている行事：別紙参照  
進める上での課題：別紙参照

問 1 4 各地区において、現在公民館単位でコミュニティ協議会の設立に向けて協議が進んでいますが、コミュニティ協議会設立の必要性を感じていますか。

- 1. 感じている
- 2. 感じていない
- 3. わからない
- 4. 無回答

人数	%
41人	35.3%
11人	9.5%
57人	49.1%
7人	6.0%

「わからない」が49.1%と最も高く、次いで「感じている」が35.3%と高くなっています。

問 1 5 今後考えられる自治会の課題は何か教えてください。

別紙参照

問 1 6 本町における今後のまちづくり、協働のまちづくり、自治会活動において、ご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

別紙参照

平成26年度 自治会アンケート調査

問13 自治会で一番力を入れている行事

NO.	行事名
1	集会所周辺の草刈り
2	道づくり
3	こんびら様
4	道打ち(春・秋)
5	道打ち
6	草刈り等の清掃作業
7	集会所の清掃、道打ち、溝さらえ、地蔵尊のお世話
8	ふるさとまつり
9	防犯
10	共同作業
11	溝掃除
12	新年互礼会
13	災害時
14	沼八幡行事参加
15	防災訓練
16	溝掃除
17	自治会総会
18	水路清掃
19	自治会溝掃除及び広場の草刈り
20	総会
21	神社の秋祭り
22	神社祭礼と清掃
23	児童公園の草刈り
24	環境美化事業
25	ゴミの分別
26	地区清掃
27	清掃活動及び総会
28	親睦旅行(日帰り)
29	総会、清掃活動、親睦会
30	回覧物の配布
31	十七夜約10～14日前に行われる町内一斉清掃
32	神社社祭事に伴う清掃、草刈り作業(神社周辺)
33	草刈及び溝掃除
34	神社掃除、自治会溝掃除
35	草刈り(川岸の草とその上側の空き地)
36	地域内清掃活動5月、7月
37	年一度の定例自治会内一斉清掃プラス不定期のゴミ拾い
38	年2回草刈り、溝掃除
39	公園の草取り(年3回)溝掃除(年1回)
40	総会以外の行事がない
41	防災、環境美化、イノシシ被害対策
42	総会(3月)お宮周辺の勤労奉仕(枝きり、草刈り他)
43	道づくり、自治会館および通路水路の草刈り、清掃作業、集まりごと
44	春と夏の道づくり(草刈り等整備)
45	三世代交流鯉のぼり祭
46	総会
47	道づくり
48	山こり
49	団地内の溝掃除、草刈り(川の中)
50	清掃活動
51	溝掃除と公園の草引き
52	2年毎の溝掃除
53	清掃活動
54	年1回の道路清掃及び部落忘年会(コミュニケーション)
55	清掃活動
56	明神様の管理運営、秋祭り夏祭り、しめ縄づくりなど

57	神社(明神様、曾根八幡様)の祭り
58	清掃作業及びその後の親睦会
59	道普請、公園草刈り
60	和田川の道打ち
61	道づくり
62	道づくり
63	地域内の道づくり(草刈り等)作業(最低年2回)
64	地蔵清掃
65	夏祭り
66	草刈り
67	環境美化事業
68	草刈り及び溝掃除
69	自治会内清掃(年1回)総会(年3回)
70	道づくり
71	三世代交流芋収穫祭
72	三世代交流芋収穫祭
73	海岸清掃、芋収穫祭
74	三世代交流芋収穫祭
75	春の道打ち、中山間事業による村内整備
76	道や共同墓地などの整備
77	地区美化運動
78	地区の神社の奉納行事
79	神社行事
80	親睦会
81	主要道路の草刈り
82	環境整備(草刈り)町道、生活道路
83	祭り
84	えびす講
85	児童館および神社、祭りごとの掃除
86	秋季防災訓練
87	5月田名沖一斉清掃、溝汚泥処理
88	盆踊り
89	神社に関わる祭事、集会所の清掃
90	故郷祭

# 平成26年度 自治会アンケート調査

## 問13 自治会行事を進める上での課題などについて

NO.	内容
1	年5～6回実施しているが、高齢者世帯がほとんどであり、年々参加者が減っていくこと。
2	道づくりの後、一杯やりましたが、参加者が減り、顔を合わせる機会がなくなりました。
3	事前清掃と祭典があり、会員の当番制で行っています。高齢者が増え、一人住まいが増え、代理者が増える状態です。
4	山間部の旧道・林道まで手が回らない。
5	参加者が高齢となり、人員も少なく、将来が不安である。
6	自治会の高齢化。
7	今までは、協力的な人が多かったが、今後もそのまま継続していくか、不透明な部分もある。高齢化、リーダー不足。
8	高齢化が進んでいるが、全員協力的である。
9	年に一度の集まりなので少しでも多くの会員さんに参加していただきたい。
10	自主性もなく、意見もない状況。若い世代の方は自治体に興味がないのでは。
11	溝をきれいに掃除すること。
12	自分が主体で勝手なことばかり。現在は草刈りの時に話しをする程度で参加の気持ちもなく、仲良くする気持ちすら感じられない。
13	高齢化になり、一同が集まり顔を見ることがなくなったので、3月末の自治会総会に会員全員に集まっていたら総会終了後会食をしながらワイワイとひとときを過ごすこと。
14	活動後の集いなどが実施できたらと考えている。
15	高齢化による作業のための疲労。
16	会場が中央公民館で(自治会で集会場所を持っていない)高齢化で参加者が少なくなっていく。
17	自治会全体の少子高齢化に伴い、行事を次世代者に受け継いでいくための努力はしているが年々簡略化していく傾向にある(若者の意識の変化)
18	年1回各世帯より1名参加により河川清掃を実施している。この他有志による川沿いのゴミ回収、除草などにより環境美化・保全につとめている。しかし住民の高齢化、体調不良などにより参加者が減少傾向にある。今後参加者の確保が課題になる。また、参宮川の石垣のでっぱりが目立ってきた。崩落が心配される。この10月10日付けで建設課に護岸改良工事を申請した。速やかな工事着工が望まれる。
19	回覧、本人に伝えるが難しい。
20	26年4月、最初の親睦旅行を実施したのですが今後は負担金が多くなるので果たして参加者があるのかなんとも言えないのです。4名以上参加者があればツアーへ申込みするのです。(毎年実施の予定)
21	以前から、自治会の役員さんと話したことがありますが、河川敷の各々の在り方。草が生え放題であったり、車が長く駐車してあったり、各家庭で木を植えたり、菜園になってたり、見栄えはあまり良くないと思います。また、草が伸びるころには、草刈りを頻繁に行わないと蚊や虫が多くて大変なのが実情です。舗装をしていただけたらかなりきれいな河川敷になるのではと。(少し、手前味噌ですかね)
22	高齢化により参加できない人が多くなる。アパートなどの居住者の参加者が難しい。
23	ふれあい、人数減。
24	掃除も住民の高齢化により、いつまで続けられるか不安です。考えなくてははいけません。
25	大雨の時上流からの雨水で川幅が小さいので川を越えて雨水が住宅方面に流れ込むのではないかと皆様方の言葉を良く耳にします。
26	役場の軽トラック貸し出しを利用しているが、受付が一か月前からとなっている。平日の時は会社勤めの人は手続できない人がいる。決定している時は年度当初より申込みできるようにしてほしい。
27	自主参加としているが、大人も子供も共に参加できたらと思うが子どもの参加は極めて少数で、親子そろっての共同作業が望ましいところです。
28	全員の参加が難しい。
29	自治会は成り立たせるけど、どちらかという行事に関してはあまり参加したくないという考えの方が多(仕事等されている方が多いのもあるため)
30	高齢化による若手不足。
31	出席者の低下による負担が大きくなる。(高齢者及び故障者による)
32	高齢化が進み、参加人数の減少等で活動が負担になりつつある。
33	同じ集落に住んでいても日頃は顔を合わせる機会も少ない今日、お互いにおしゃべりをしたり、バーベキューを楽しんだりして思い出の残る行事にしたいということで青年会が中心となって取り組み9年目を迎えました。当地区も少子高齢化が進み、子どもの数も現在小中生3名、高齢化も進み、出席数も年々減少傾向にあります。今後青年会が中心となって、取り組んでいく予定です。町内外からも大空を泳ぐ鯉のぼり見物に訪れています。ぜひ見に来てください！

34	世帯数の割にエリアが広いことによる日常生活の一体感が希薄。高齢世帯や独居世帯が約7割を占めていること。
35	高齢化が進み、作業できない人が増えている。
36	全員が協力してくれるが、参加者の年齢が高くなったこと。
37	勤め人が多いため、予定日が雨天の時など次の曜日に人が集まらない。
38	自治会員が高齢者が多く作業が段々大変になってくると思います。
39	常にお互いのコミュニケーションを図ること。
40	必要として活動参加者と無関心組に分かれる。
41	高齢化で協力者は減っては来ているが手順は良くわかっており我がことのように一生懸命やってくださり頭が下がる。今後の課題は後継者と資金不足。明神様は台風のたびに被害があって、補修を繰り返していますが、全額自治会の皆さんの負担で賄っています。預金も底を突き、今後の管理に不安を覚えています。
42	参加者の減少。
43	会員の高齢化。
44	参加、80歳以下(規約)年々参加者減少等。
45	作業量の増加(雑木、雑草)高齢化、戸数減。
46	会員数が少なくなり(作業エリアは今までどおりのため)その上だんだんと高齢者が増えてきて草刈り等の作業が思うようにできない。例えば公道に面した法面の草刈りや立木の伐採等(足場が悪いため)
47	自治会員の高齢化。
48	高齢化で参加する人が少なくなっている。
49	どの場所をどのように進めていくか。
50	人口減少。
51	戸数の減少及び高齢化で難しくなっている。
52	総会の出席率が悪い。24年度42%、25年度46%、出席率アップの妙案、教えてください！
53	自治会の年齢が上がって若い人が段々少なくなっているこのまま道づくりがいつまでできるか心配。
54	先月、19回目を終えましたが、年々少しづつ子どもの参加者が減っているように思われます。地区挙げての一大イベントなので、今後とも存続できればと思います。
55	高齢化と人口減少。
56	皆で協力し、怪我のないように行う。高齢化している自治会を盛り上げる。全世帯の参加を呼びかけ、回覧を回すなどし交流を深める。
57	先月、芋収穫祭があり、芋収穫コンクール、ビンゴゲーム、美味しい鍋を200人分用意し、子どもから大人まで楽しく過ごすことができました。
58	自治会、中山間事業に全戸加入で中山間の事業資金が大きいため、年間行事のほぼすべてが中山間事業でカバーすることになっている。
59	木の伐採等、高齢者が多くなり、危険な作業が年々困難になりつつある。川が流木や草で荒れてきて、どうにかしないと、と話に出るがその先の解決に至っていない。
60	高齢化が進み参加者が固定される。若者の出席がほとんどありません。
61	高齢化による参加人員の減少。新しいことに対して意欲が薄れてきている。現状維持が現況かも。
62	人員確保。
63	高齢化による作業内容の減少。
64	高齢化と人口減少により以前より各自の負担が多くなっている。
65	毎年人の数が少なくなり、人の寄りには注意して人数を集めるのに段取り等気を配っている。
66	当家の負担が大きい。
67	毎年避難訓練やAED研修等を実施しているが、毎年同一でないものを行うための行事選定が難しい。町役場等に相談しているが、今後対応よろしくお願ひしたい。行事の内容によっては今後機関の協力の要請が必要となる。佐賀公民館、田名分館にもAEDを設置していただきたい。よろしくお願ひします。佐賀公民館、田名分館の使用を管内の黒板に記入のみで使用できるようにしてほしい。
68	年々、参加者が減少している。
69	参加者の固定化。
70	コミュニティ会場が手狭、駐車場が不足。



# 平成26年度 自治会アンケート調査

問15 今後考えられる自治会の課題は何か教えてください。

NO.	内容
1	高齢者世帯で地区の一番西側の地区であり、コミュニティへの参加者が限られている。今のところ集会所への集合は何とかできているが、今後は集会所へさえ集まらなくなるのではないかと。
2	町・協議会・自治会の連携がどうなるのか、どうされるのか。良く見えてきません。自治会としてどう対応しているのか。自治会員に説明できません。
3	空家、一人住まいが多くなってきています。自治会の活動が少なく顔の知らない人が多い。(20年前に移ったため)自治会自体の集会所がなく、役員会(班長、会長)をすぐ開けるところがない。(コミュニティセンターを使うのはなかなか難しい)
4	168世帯の現状把握(特に高齢者や支援を必要とする人)戸建団地と旧来の住宅が混在しているが、ともに高齢化が進んでいる。特に、戸建団地の方は同時期に同年代が入居してきた関係で、ほとんどが70歳を超える年代になってきている。都市部の団地と同じ状況であり、5年後・10年後を想定して、どう対応していくか考えていく必要がある。
5	健康や体力に問題がある高齢世帯のサポート、日々の安否確認や家事の支援。行政一民生委員一自治会の連携強化が必要ではないか。(個人情報共有し世帯への介入度合をあげるなど)
6	高齢化に伴い、行事に参加できる人が減ってくるのではないかと。不安である。
7	高齢化問題。
8	各戸の連帯感の希薄化
9	防犯・防災。
10	高齢化対策。空き家、空地(所在者不在)対策。
11	高齢者ばかりの自治会になっている。皆老夫婦健在の世帯だが、5年後が心配になってくる。独居が出ると、日常からの見守りがいるだろう。同じ地域の高齢者同士が、気軽に立ち寄って、「話し」が出来る場として地域コミュニティ協議会を自由に使えるように、してほしい。
12	住民の意思疎通がない。住民に興味のあることを示す必要性。
13	会員の方々が一人でも多く参加でき、輪が広がる行事を考えていけたらいいなと思っています。
14	自治会の存続と情報伝達機能の維持(自治会の存続)①会員の高齢化、少子化、人口減少による自治会活動の低迷と意識の低下。生活環境の中で自治会に占める割合が非常に小さく、関心度、重要性が低い。特に若年層は自治会そのものの存在が眼中にない。したがって、自治会というものの必要性や意識のなさが、あるとすればちょっとお邪魔虫的な存在となっているかも。②会長の任務も上記の原因で1年間の辛抱、我慢の時間と考えるため、会の発展性がなく、いつまでも問題意識、向上心は生まれにくい。③現況下では、町は自治会に何を求め、何を望んで何の行動をしようとしているのか?逆に教えてもらいたい。(情報伝達の維持)①町報その他配布文書類の停滞の防止。高齢化に伴い、配布方法の改善をすると共に、町においても日程に余裕を持たせるようにする。②現状が町の思惑、意図と違っているならば、共に最低限の条件を維持・管理し、情報伝達のパーフェクトを図るべきである。※自治会の持つ意義や大切さをお互いに強く持ち、また、双方で連帯感を捨てないことで常に放送しつづけ、ネットワークをつぶさないことが肝要である。
15	若い世代の方や高齢者の方も気持ちよく散歩できるように環境整備の遅れを取り戻していくこと。空気、道、緑、水など工場排気の規制で取り戻せることは進めていくこと。(化学工場など)
16	防災訓練
17	転入時に自治会に加入しない世帯があり、どうするか不明。何かの時には隣近所の気持ちがない。
18	高齢化。
19	高齢化に伴う自主防災。※一般に防災と言っても幅が広く、地震、火災、豪雨時の避難等を考えなくてはならない。
20	防災 今後自主防災組織をつくりたいと考えている。班同士の連帯 総会を実施していないので班長を含めて班と班のつながりがなく感じているので集いを設けたい。
21	高齢化、自治会長、班長、当番の仕事も大変になっている。
22	高齢化により役員をされる方がいなくなる。回覧板等を隣に回すのも困難な家が増えてきている。
23	高齢化。
24	世代交代による次世代への受け継ぎの面での意識の変化、地域のコミュニケーションの難しさ。
25	自主防災活動について、津波が押し寄せ全員避難指示が出るような大災害の場合の要支援者の搬出・避難をどうするのが大きな課題である。自治会員の高齢化が進み、後期高齢者が約35%を占める。この中、要支援者は6~7名となる。一方、支援活動可能な世代男性は10数名程度であるが、災害規模や発生時間帯によってはけが人や不在者などあればさらに限られた人数となり支援活動は不可能である。要支援者への支援は自主防災組織での対応は無理がある。行政側で対応を考えてほしい。
26	もう少しコミュニケーションを取りたいと思います。

27	自治会は必要ないのではないだろうか、また、活動も限界と思います。活動しようにも資金面に大きく左右され、また、何をするかましてや会費を増額してまで必要性があるか、現状は定年退職等の人が多くなり自由な時間が持てるようになると付き合いをしなくても別に生活等に全く問題はなかったわずらわしいだけと思われま。職場等の場合は仕方なく方針等に従わなくてはならないが、いざ自由になると考えも変動するものでは。現在は週休2日制(全国何%くらいか?)になり十分に活動もできるとは思われな。あくまでも2日制は暦の上のことでは(特に民間企業は)
28	自治会員(住民)の声を役所に届けられるか。自治会での町への要望をどのように届けたらよいか。自治会長個人の意見、または自治会員の同意書が必要でしょうか。南蛮樋工事の完成時期そして出来上がった街灯3か所、カーブミラーの復元について。
29	高齢化による班長、役員を決める際の問題。当自治会は世帯数は多い、そのためなかなか各世帯の把握が自治会長だけでは困難。各班での(隣人で)関心度が密にならないといけなかなと。特に高齢者、障害者の方に対しては。しかし、個人情報問題もあり、自治会長がどこまで関与していいかわからないこともあり、そのあたりは行政にお願いして対策をしていかないかなと痛感しております。
30	空家の問題。高齢化による環境整備美化活動が困難になること。
31	人数の減少、ふれあい。
32	高齢化による自治会活動を共同でできる部分、そうでない部分を考えながらやっていくことですね。
33	高齢化による自治会運営の困難化、地域内清掃を高齢者が従事することは難しいが、代わりにできる若い人がいない。
34	高年齢化に伴い、元気で動ける人が少なくなり、従来通りの行事が難しくなりそう。
35	高齢化にともない、自治会も老々自治会となり、皆がどのように自治会の役割分担をするか難しいと思います。
36	上記にも書いておるとおり、自治会の存続そのものを考えていかなければならない時に来ているように思います。高齢化、若者(自治会は該当なし)が最初から自治会へ加入しないなど、広域化も一つの手段として考える必要があると思います。
37	自治会の行事に参加する人は、ほぼ同じ顔ぶれなので全員参加できるようにしたい。
38	今後世帯数が増えた時の自治会の在り方。
39	要するに、やる気にSWが入れば良い。自助、共助、公助を理解していただき、将来を見据え忍耐強く行動に移していただけるか？
40	空き地、荒地等の管理方法。
41	道づくり、自治会館及び通路、水路の草取り、清掃作業が高齢者及び故障による出席者の低下で負担が大きくなる。高齢者の通院生活の足の確保。
42	高齢化、少子化(現在小学生以下は0人)等で自治会活動の維持が困難になってくると思う。
43	当自治会は3班に分かれており、各班長(輪番制)に各行事関係の日程等・回覧および配布物の依頼・その他連絡事項等をお願いしていますが、各班の戸数に開きが生じています。現在1人世帯もあり益々開きが拡大すると思われま。※戸数が減少することで、班体制を見つめ直す時期が近い将来来るのでは？！
44	高齢化が進み若者の世帯との交流化。
45	自治会の単位としての共助活動が困難になる。自治会役員の固定化。
46	高齢化の進行。一人家庭の増加等のため、自治会の活動が制限されてくる。
47	核家族化が進み、高齢者世帯が多い地区、勤労者世帯が多い地区など地区により偏りが出てきている。高齢者は体力的問題から、勤労者は子育てや仕事に忙殺されて、自治会活動に参加する余裕がなくなっている。このため自治会としての統一した活動をするのが難しくなっている。
48	高齢者の一人暮らしが多くなり会長を引き受ける会員が少なくなる。
49	会を設けて話し合ったがほぼ無関心。
50	自治会のいろいろな活動について休みの日がみなさんばらばらなので、総会、草刈りの日以外は人が集まりにくいので他の活動を提案しにくい。
51	互いの意見や要望への取り組み。
52	自治会長を引き受ける人がいなくなる。若い人が少なくなり人数も少なくなり地域の環境も維持できなくなる。当然防災面に問題が起こる。10年先が見通せない。
53	以前は猫の糞や早朝の騒音で眠れないなどの被害も出ましたが、飼い主の理解を得られてすっかりなくなりほっとしています。今は特にありません。まとまりのある自治会で助けられています。
54	溝蓋を開けて溝掃除をすることができない。(高齢化のためと、器具・人数不足)
55	自治会員同士のコミュニケーションをはかっていきたいと思ひます。
56	高齢化が進み上記のごとく自治会長の輪番制にしても若い人が少なく、すぐまわってくる。自治会長の権限は何もない。当自治会では行政協力委員手当も自治会に入り、何もメリットはない。高齢化により高齢者の言動は強く、自治会長もやる気がしない現状のような。
57	山林、田畑への管理不能家庭と管理放棄廃屋家庭の極端な対応差により、共通認識が得られない。小言談義に終始し前向き討論となりがたい。
58	これからも更に住民の自治能力が低下していくことを懸念している。特に住民の高齢化によりコミュニティがとれなくなる。
59	草刈り等の共同作業。道路沿いの竹、木の整備。災害時の道路の確保。有害獣の対策。
60	若い人が少なくなり、行事をするのに負担が多くなりつつある。

61	人口減少による自治会の活動、あり方。
62	ひとり暮らし世帯の対応。空家対策。自治会役員の引継ぎ(後任役員選出に苦慮している)
63	リーダーの資質のない者も自治会の会長を引き受けなければならない。
64	地区に関して、現在自治会長とそのまとめ役としての協議会長(リーダーシップ有)の制度が十分に機能しているため、おおむね順調に自治会活動はなされていると思います。ご指摘のような事態は当然起きてきますが、広範囲になるといろいろな課題も出てくると思います。
65	人手が減少し、今までと同じ作業等ができなくなる。
66	人口減の対策について話し合う場づくり。本気で!
67	半数が高齢のひとり暮らしであり、生活面についての心配が増えている。ただ近隣に住む家族が世話に帰ったりして来ているが、24時間対応という訳にはいかない。中央と離れた地区なので、近所が親しく付き合い助け合うことが一番だと思う。
68	行事の継続及び参加者減少について。子ども会の継続ができない(少子化で)
69	自治会が合併しても共同作業可能者の確保は難しい。自治会間で協力し人員を確保する組織。
70	各自治会の高齢化は日本全体の傾向で仕方のない現象です。生活者の最小単位である自治会で昔と今で異なるところは、近所の絆が薄れてきているところがあります。しかしそんな中でも、火事、災害時の互助精神は変わっていません。町としてもそのへんの絆を日常生活で強める仕組みや方法を考えてもらいたいと思います。
71	もう少し自治会集会の回数を増やして、いろいろな意見を出し合って、もっともつと住みよいまちにする。
72	やはり高齢化というのもありますが、会長の決定などに関して、自分は当地の人間ではなく、県外居住の経験ではくじ引き、順番、等ありましたが、ある地区では役員改選の時には毎回ひと騒動ありました。誰もがやりたがらないのです。当地区では、投票という言葉が良く出ますが、やりたい方が多数の場合が投票ではないでしょうか。やりたくなければ自分以外の名を記せば済むことです。未だ当地区に居住して年月も浅く、各位の考えも深くは理解できませんが、この少数の集落で、皆が協力して明るく楽しく生活していきたいと感じます。
73	中山間の自治会では今後高齢化と人口減少で世帯数が半減する状況にある。活動も一部の人の負担を重くする状況になる。(このような状況ではUターンで帰ってくる人も期待できない)
74	自治会として何か目標を持って進む方向性があると良いと思う。
75	役員不足。
76	感じてはいますが出席するのに高齢のため負担が大きすぎる。
77	高齢化に伴い、ほとんど活動をしていない。
78	少子高齢化、人口減少に伴い活動及び行事の参加者が少なくなり、行政協力員でなく地区自治会全員と町との協議が必要と思います。
79	高齢者の支援 近年高齢化が進んでいるが、自治会としては支援が難しい面がある。地区民生委員との連携も少なく、災害対策の対応が厳しい面がある。町役場、福祉協議会、民生委員、自治会が連携できる対応が必要ではないか。
80	高齢化が進み各行事の参加者が減少する恐れがある。
81	個人情報規制で立ち入れない。
82	少子高齢化、人口減少、荒地、空き家の放置。

## 平成26年度 自治会アンケート調査

問16 本町における今後のまちづくり、協働のまちづくり、自治会活動において、ご意見ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

NO.	内容
1	自治会は年々世帯数が減り、さらに高齢化になり、自治会活動も限られた人数で実施するようになる。空き家も増えてきており、将来的には消滅してしまうのではないかとと思われる。空き家バンクに登録しても町道が狭くカーブが多いような地区には到底空き家を求めてこないでしょう。
2	「年寄りの町、平生」となるのでしょうかから、それを前面に出し、年寄りの力で子どもたち、親たちと協働できれば良いと思います。
3	会員の顔が見えない。会長の一年生が多いということなのでなかなか皆さんと話すチャンスがないと思う。
4	多種多様な価値観を持ち、異なる生活環境にある者が、同一地域に住むという共通項によって、まちづくり等に取り組んでいくということは、相当困難なことだと思います。その取り組みが、無理強いや押し付けとならない(とられない)ようにしていくことが肝要と考えます。地域において、趣味やスポーツや遊び(旅行等)等でつながっていくということなら、できることであるし、実際に数多くみられます。そういった自主的な活動につながるものを幅広く行っていけば、それが複合的に組み合わせたり、繋がっていくことで、徐々に同一地域に共同意識が醸成されていくのではないのでしょうか。結局、こうしたことが、まちづくり等の近道のように思います。協働は、共同・共働であり、生甲斐＝社会参加と承認、という視点が重要です。地域に「参加している」「働いている」「役にたっている」という場を作(創)っていくことが鍵といえます。まさに、キーワードは協働です。
5	自治会内に廃屋状態の家屋がある。倒壊のおそれがあり非常に危険である。小、中、高校の通学路でもあり対策する必要がある。地域と役場が連携し、対処したい。
6	年1回大型ごみ(家具等)の回収をしてほしい(有料可)
7	現在、準備を進めているが、果たして予想通りうまく活動ができるのか、全く先が見えない。
8	1. 大賛成である。現在、準備委員会に参加しているが、まずその場での自治会長の考え方をしっかり聞くことが大切だと思う。2. 協働のまちづくりについての行政(役場)の職員1人ひとりの考え方(なぜやるのか)意識改革をしっかりとってほしい。例えば①それは〇〇課の仕事で、うちは関係ないという従来からの課の壁を取り除き、低くしてほしい。②行政の「サービスの質」が今後は根本から問われてくるのではないかと危機感を感じてほしい。当然スピードアップ重視で。3. 自治会長が一年交代では活動にならないように思います。行政としての方針をたて、指導をお願いしたい。
9	自治会長に全部押し付けている。
10	「命あつての物种」という言葉がある。～防災意識を高め、災害から住民の生命、財産を守り、豊かな社会生活を！1. 私たちの自治会では、現在自主防災組織(情報連絡網のみ)はあるが防災訓練を実施したことがない。(合同訓練は別として)2. 防災意識を高めると共に、いざという時に役立つ命を守る行動をとるために、以下のことを充実していきたい。(公的機関協力のもとで)①年1回、津波の避難訓練の実施。避難経路、危険箇所の確認、安全場所への避難行動。②防災士(アドバイザー)による防災教育の場を設ける。防災一般と災害別(大雨、台風、火災、地震、土砂災害、津波等)の知識の習得③防災機関の実地訓練。人工呼吸、AED、消火器の操作方法の習得。④ハザードマップで警戒区域に指定された意味(理由)を知ること。なぜ?!指定されたのか?安全地帯とどう違うのか。⑤特に土砂災害警戒区域に該当する人に対してその意義の周知徹底。危険箇所の明確化。異常察知能力のレベルアップをはかる。⑥現在、計画進行形にある築后130年に延ぶ古いため池の解体。危険ため池の指定とその他解体。災害は忘れたころにやってくる→普通の話。災害はいつでもどこでもやってくる→現在。
11	当自治会には高年齢世帯が多く自治会長および回覧配布が段々と困難になってきています。今後どうしたら良いかと考えてますし考えてください。
12	協議の時に、悲観的、抽象的な意見をされる特定な方がいられるので、協議の参加がいやになります。協議についての意見は個々で後日アンケートをとっては？
13	当自治会を町の職員は知ってほしいです。町議のいない自治会は何もしてもらえない。
14	自治会に加入しない世帯がある(特にアパート等)ため、まとまりがなくなる点があるので、転入届を提出の時に話しをしてほしい。加入していないと回覧等もなく不自由な点等も同じく。
15	自治会内に町の普通財産がある場合、環境整備のため草刈り等を自治会主体で実施できる方策があればと考えている。
16	企業誘致による若い世代の町への流入。自治会長の固定化。
17	自治会単位活動も数年で困難になるとと思われる。若者が多い(アパート、マンション)自治会と高齢化の自治会と二極化が問題である。今のような自治会単位のまちづくりをどう変えていくのが課題と思われる。

18	若者が積極的に参加したいと思えるような活動を主体とした行事やコミュニケーションができる場を提供してほしい。少子高齢化に伴い、高齢者の福祉施設ばかりが目立ち、企業誘致ができていないことが今後のまちづくりにはマイナス点なので若者が働ける場が提供できるまちづくりであってほしい。
19	問15で言及したように自主防災組織での防災・減災には限界がある。各自治会自主防災組織のハード、ソフト両面から現状を精査し、何が不足しどう改善すべきかを行政側が積極的に関与すべきと考えますが、いかがでしょうか。自主防災組織は設立するのが目的ではなく、組織をいかに機能させて防災、減災に結びつけるかが目的と考えます。今回のアンケート調査は、自治会の組織運営や活動内容の実態調査としながら、関心の高い防災に関する各自治会自主防災組織の現状調査がかけているのはなぜなのか。その理由をお聞かせ願いたい。
20	お花が綺麗に整備されていてとても気持ちがいいです。いつもありがとうございます。
21	非常に困難をきたす事業ではないですか。また何%ぐらいの者が参加できるものであろうか。自治会の課題に等しい。
22	協働のまちづくりは必要と思いますが、「参加と協働」と一致になると意味が少し分かりません。(協働だけでよいのではないのでしょうか)地方創生(再生)のまちづくりも大切と思いますが、地方財政の再生が先と考えます。財政再建を第一に行ってください。
23	コミュニティは隣近所の付き合いが最も大切で班全員の良好な人間関係をつくっていくことが大事だと思います。ちなみに私の班では年3回各家庭輪番で班会を行っています。正月の月は全員でバスで出かけ、温泉や食事ゲームなどで一日楽しんで帰っております。
24	元気なお年寄りや団塊世代の人に自治会活動などを要請してはどうですか。
25	老々自治会でどのようにまちづくりか？ひとり家族の中に入るのは難しい。
26	自治会加入者でも行事に自ら参加したいと思う方が少ない。自治会以外でも子育てボランティアでも誰かが参加したらつられてとかめんどくさいとか思う方が多いため企画や運営をしたいとか思う人が少ない。逆に、自分たちの生活する上で不便とかこうしたい、改善したいという考えについては意見を出す方も多いので、まずはそういうところから協働の活動をすすめてらいいのでは？
27	当協議会と離れた地域の協議会と提携を結び、交流を深め切磋琢磨して前進できればよい。
28	災害時の避難方法、行動、場所の整備。コミュニティ協議会の設立につき行政の力強い支援のお願い。公民館に本庁及び役場と連絡を取りあえる職員さんの常時配置のお願い(災害時も)休耕地、放棄地による鳥獣被害対策のお願い。マイクの放送連絡が聞き取りにくい。
29	町全体の問題と思いますが、高齢化、少子化、空き家対策等を考えていただきたい。将来的には隣接の自治会との併合も考えていかなければと思います。
30	防災無線について、本地区は三方を山に囲まれた地形にあり、防災無線は高台に設置されており、その防災無線の高さより低い世帯が多くあり、何を放送しているのか分からないことがあります。現状、こちら側に設置されているので、対面の地区は問題ないと思われる。要するに対面側に追加設置して、本地区方向へスピーカーを向けるとか、低い場所(地形)に設置して山側に向けて流すとか、検討していただければと思います。※防災無線の役割をはたしていないと思います。以上気づきです。
31	自助、共助が難しくなると考えられ、いきなり公助を必要とする時代が来ることが想定される。
32	若い人が平生町に定着するようなまちづくりが必要と考える。
33	団地自体が地元の人ではないので何をしても無関心すぎる。今年も6月に会を設けて話し合いの場を設けたが何の意見も出さず終わってしまいました。意識が低いとつくづく思いました。
34	隣近所でさえ、会うことが少ないので横のつながりがない。休みの日でも、他にやることで多くて付き合いができない。定年後ぐらいでないといけない。年間活動計画などがあれば早目に準備できるので(何月何日がはっきり分かるものがあれば)
35	住みよいまちづくり。
36	人口の減少で単位人数を見通した組織づくり。リーダーの発掘、養成。
37	上記のように問題が発生した時の窓口になってほしい。小さな芽でもすぐに対応しないと今の社会バラバラになる危険性はあると思います。失敗を恐れず前向きなまちづくりを望みます。先日溝蓋2か所修理をお願いいたしましたところ、すぐに来ていただきありがたかったです。
38	空き缶などのポイ捨てをなくす工夫をしたらよいと思います。
39	自治会長へのお願いも多すぎるようだ。町職員がもっと活動でき、高齢化、地域への手助けが必要に思いますが。
40	地域ごとに異なる問題点、指向をまず整理する必要がある。地区単位の当面の課題を消化していかなければ理想とするまちづくりへの関心は得られないのではないか。
41	住民同士の助け合い精神の啓発。世の中全体が個人主義・秘密主義になりすぎているように感じるため。

42	現在、曾根地区でもコミュニティ協議会の設立に向けて準備委員会を立ち上げておりますが、委員の構成が現存の団体(婦人会、自治会、公民館、子ども会、PTA等)に関わっている人が多いので、今後の活動においてどのように区分けを行うかが必要かと思えます。※活動内容全般を見渡してダブらないようにする。
43	地域ごとに長年培われた風習も大事にしながらいち早く少子高齢、人口減に対応したまちづくりを考えていければと願っております。
44	今はノーアイデア！残念ながら！
45	空家やその他荒れたところなど、危険なところの管理が難しくなるのは目に見えている。ボランティア等協力できる人の体制を整え、お互いに助け合う精神を育てていくのが大事と思える。困った時の「お助け隊」につながれば、どんなにか心強いただろう。空家をリフォームして、若い者に住んでもらえれば活性化になるのではなからうか。
46	これから会を開いて地区活性化のためアンケートなり意見を発言していただき前向きに検討、協議をお願いしたいです。
47	「協働のまちづくり」の啓発。
48	協働のまちづくりの中でいろいろな協議会をつくるのは良いことですが、協議の場をつくってもその内容の実行効果は、一部だけにしか伝わっていないように思います。協議会で決まって実行していることの効果等をもっと広く知らしめる方がよいと思います。
49	未だに防災無線放送が何を言っているのか聞こえない。特に家の中には全く分からない。年寄りが多いので今のままでは無意味である。
50	当地区だけではないかもしれませんが、上下水道が未だ完備されておらず、これからも進めていく予定もないとのことらしいのですが、それでもそういった地域で生活する者にとって命の源である水はとても大事なものと強く感じております。昨今、山が荒れてきた上に不法投棄の様々なゴミの堆積したそのような土地からの水を飲まざるをえない生活をしている住民も存在するのではないかと思います。根本的なことが完了してなければ・・・と感じます。
51	魅力ある町、地域、環境で人を呼び戻せることが出来たらよいと思うが、そのためには何が必要かは思いつかない。
52	各自治会にはいろいろな問題点等があると思われそうですが、その問題点を自治会の会議等で意見を出し合い、話し合いをして進めていくと良いかと思われそうです。
53	高齢世帯が増のため共同作業等に参加できない。
54	コミュニティ協議会の活動に期待したい。
55	自治会の負担を増やさないこと。